

医師として広島県を
“えっと”楽しむマガジン

#002

2014 SPRING

【えっと】

広島県

ÉTTO

医師として広島県を
“えっと”楽しむマガジン

ÉTTO

【えっと】 2014 SPRING #002

(公財) 広島県地域保健医療推進機構

地域医療への扉

ふるさとドクターネット広島

広島で、医師として輝き、幸せになってほしい。

あなたの豊かな医師人生のために、

(公財) 広島県地域保健医療推進機構の

『ふるさとドクターネット広島』があります。



(公財) 広島県地域保健医療推進機構が発行する、
医学生・研修医・若手医師に広島県の医療をPRするための広報冊子です。
今号は新診療棟がオープンした広島大学病院を特集します。

(公財) 広島県地域保健医療推進機構は、広島県・県内全市町・広島県医師会・広島大学が協働し、広島県の地域医療の確保等のため、平成23年7月に設置された公的団体であり厚生労働省提唱の「地域医療支援センター」です。

わたしたちは、広島県内の地域医療の確保に向けて、医師の地域偏在・診療科偏在解消のための配置調整や医師確保、人材育成等に総合的に取り組んでいます。医師の立場からの助言ができるよう、自治医科大学出身の内科医師も勤務しており、みなさまのご相談やご希望を伺っています。



地域医療への扉

ふるさとドクターネット広島

公益財団法人広島県地域保健医療推進機構

■お問い合わせ

(公財) 広島県地域保健医療推進機構 地域医療推進部

〒734-0007 広島市南区皆実町一丁目 6-29

電話：082-256-2011

FAX：082-256-2026

E-Mail：iryu@hiroshima-hm.or.jp

<http://www.dn-hiroshima.jp>



ÉTTO × SCOOP

広島から次代の医療をつくる。 広島大学病院、新診療棟 開院

広島大学病院は、未来の医療に対応するために新たな診療棟を開院。
広島大学病院 茶山一彰病院長に聞いた、新診療棟の特色とは。

文：田口 素行 写真：小菅 聡一郎

「強さ」と「潤い」のある病院へ。

広島大学病院は、未来の医療に対応するため、新たな診療棟（地上5階、地下1階）を平成25年9月20日に開院した。

広島大学病院は、「高度の医療の提供」、「高度の医療技術の開発及び評価」、「高度の医療に関する研修」の3つの機能を備えた特定機能病院であり、新診療棟はこれらの機能をより充実させると共に、患者さんにとって、わかりやすく、利用しやすいことも考慮し建設された。広島大学病院の茶山一彰病院長は、新診療棟ができたことで、「診療面での機能強化が大きく図られた」と自信を持っている。

「新診療棟では、内科および歯科外来棟と中央診療棟の機能が集約され、また、手術室が13室から17室、化学療法室が14床から28床に、さらに外科系集中治療室が新設されるなど、診療面での機能が大きく強化されました。再生医療や細胞治療を研究する『未来医療センター』や、中国・四国地方では初となる『スポーツ医学センター』などを新診療棟内に整備されたことも大きな特徴です。研究成果を診療へ迅速に反映できる体制も整い、患者さんにより安心な高度医療を円滑に提供できるようになりました」

広島大学病院は、新診療棟が開院したことで自院が有する医療の「強さ」を最大限に発揮し、患者さんに大きな「潤い」をもたらす病院に進化しました。

人と環境に優しい病院へ。

新診療棟のコンプレックスは、「グリーンホスピタル」。環境にも優しい病院をめざしている。新診療棟の屋上庭園には、花壇やハーブ園、遊歩道を配置した癒しの空間を創出。さらに、壁面緑化や「光」、「水」といった自然エネルギーの利用も進め、棟内にグリーンを連想させるアートの配置も行われた。また、小児科エリアの壁やCT、MRIなどの検査機器には、楽しいイラストが描かれるなど、患者さんに少しでもリラックスして検査や治療を受けていただけるような優しい配慮が随所に光っている。

「新診療棟は見た目だけではなく、使い勝手も良いと評判です。」

新診療棟を実際に歩いてみると、案内表示がとても見やすい。さらに、会計窓口の混雑を避けるため診療科のブロックごとにブースを設け、受付から会計計算までをその場で完結できるようになりました。また、外来では、呼出受信機を患者さんにお渡しし、診察の順番が近くなると音とメッセージで知らせる『呼出受信機』システムを導入。これにより、患者さんは待ち時間中でも特定の場所に拘束されることなく、院内を自由に動くことができるようになりました」

こうした新しい環境やシステムは、患者さんへより最適な医療提供を実現させると共に、医療人にとっても臨床教育のさらなる充実と、働きやすい環境を実現した。

「高度な医療を提供し、優れた医療人を育成する場として、これからも一層努力していきたい」と、茶山病院長は新たな決意を持って広島県のさらなる医療の発展に臨む。



DATA
国立大学法人 広島大学病院
[address] 〒734-8551 広島県広島市南区霞1-2-3
[tel] 082-257-5555
[E-mail] byo-renkei@office.hiroshima-u.ac.jp
[web] http://www.hiroshima-u.ac.jp/hosp/





ÉTTO × Special Interview

広島県には、
医師を羽ばたかせてくれる、
独特な風土があるんです。

文：田口 素行 写真：小菅 聡一郎

広島大学病院 病院長

茶山 一彰 氏

Kazuaki Chayama

全国トップレベルの 広島の医療

広島大学病院は、高い診療実績を誇り、研究に関しても、日本はもとより世界から注目される臨床研究が行われている。広島の医療は全国トップレベルにあり、医師たちの志も高い。広島大学病院の茶山一彰病院長は、そんな広島の医療をこう表現した。
「広島には一人ひとりの医師を大きく羽ばたかせてくれる風土があ

る。コンフリクトがなく、みんな協力的で、自分がしたい医療や研究を積極的にできる環境なんです。広島には医師一人ひとりのチャレンジ精神を阻む壁は存在しません」
さらに広島県は中国・四国地方における最大の都市圏を擁する一方、自然豊かな土地環境にあり、「日本の縮図」とも呼ばれている。これを医療の面からみると、医師は日本全国の医療を広島県のなかで経験することができ、先端医療から地域へき地医療まで幅広く活躍できる

場があるということになる。
「広島という地には、どのような医師が来ても活躍できる環境がある。医師として成長していく過程で自分のベストフィットな場所を必ず見つけることができるはずです」
こうした広島県独自の環境が、個々の医師の志と能力と可能性を大きく伸ばし、広島の医療を全国トップレベルに押し上げている。

寄せられるなど、広島の医療は世界からも注目されています」

茶山氏たちの研究チームは、世界でもトップレベルにある先進的研究チームという高い評価を得ており、最近ではC型肝炎のインターフェロン治療に変わる新たな治療薬の開発に携わるなど、これまで多くの研究成果を生み出してきた。

「C型肝炎のインターフェロン治療は副作用が強く、さらに、日本では薬が効きにくい【1b型】の患者さんが7割を占めるため、課題が山積みでした。しかし、平成26年には、これを解決する新たな治療薬が世界に先駆けて日本で販売される予定。この治療薬は、副作用が軽く、治癒率も高い。C型肝炎治療の革命的な薬なんです」

茶山氏は、この新たな治療薬について、平成25年11月に開催された「アメリカ肝臓学会」で発表。米有力紙「ウォール・ストリート・ジャーナル」でも取り上げられ、世界中に発信された。

茶山氏が医師をめざしたのは、早くに母親を病気で亡くしたこと

広島から世界に冠たる 医師を輩出する

茶山病院長は広島大学病院の消化器・代謝内科の教授も兼任し、難治性B型肝炎やC型肝炎、進行性肝細胞がんの治療研究に携わっている。
「ヒト肝細胞キメラマウスを使用した研究は、世界でもうちでしかないオンリーワンの研究。世界中から共同研究の依頼が数多く

が大きい。「病気の人々を少しでも多く助けて欲しい」。そんな言葉を茶山氏は母親からよく聞かされていた。茶山氏は多くの病気の人々を助ける医師となったが、「まだまだやることは沢山ある。この世に病気が無くなったわけではありませんが」と、もともと多くの人々を救うべく新たな医療を追求し続けている。そんな茶山氏の座右の銘は、『為せば成る』、そして、『努力なくして成功はない』だ。

「新しいことを始めるときは誰でもためらうもの。しかし一歩を踏み出さなければ何も生まれません。強い意志を持って積極的に行動し、努力し続けることで成果は必ず現れる。広島には、研究でも先進医療でも地域医療でも、どれをとっても世界をめざすことができる環境がある。研究マインドを持ち、新たな知識や技術を勉強して、常に最良の医療を患者さんに提供できる医師。そしてチーム医療を牽引するリーダーシップを持った医師を育てたいですね」。そう茶山氏は力強く語った。

PROFILE

茶山 一彰 ●ちやま かずあき

昭和56年広島大学医学部卒。同年耳原総合病院、昭和61年虎の門病院、平成12年広島大学内科学第一講座、平成14年広島大学大学院先進医療開発科学講座分子病態制御内科学教授、平成17年広島大学病院副病院長などを経て、平成23年より広島大学病院病院長。





四季折々の草花が彩る 「屋上庭園」

約40種類の植物が彩る屋上庭園には、遊歩道やベンチを設置し、患者さんはもちろん、医療スタッフの癒しの空間になっています。



広島県のスポーツ医学発展と 県全体の競技力向上に貢献 「スポーツ医科学センター」

屋外でも使える三次元動作解析装置やジャイロセンサー（角速度センサー）を使った動作解析装置など最新の機器を導入。床反力計、無線式の筋電図計との併用により筋の活動や関節にかかる負担も一緒に計測することが可能になりました。



米国バリアン社製の最新鋭 「高精度リニアック」

当院に設置されているリニアック装置は、強度変調放射線治療（IMRT）、定位放射線治療（SRT）、画像誘導放射線治療（IGRT）に対応。周囲の正常組織へのダメージを最小限に抑え、より正確な放射線治療を提供しています。

21世紀医療の重要課題に対応し 新たな医療を展開する、 充実の設備と環境

写真提供：広島大学病院

急速に進歩する医学に対応し新しい医療を展開するために、広島大学病院には最新の医療環境が充実。さらに、人に優しく働きやすい病院環境だから、一人ひとりの能力を十二分に発揮でき、医師として大きく成長することができます。

医師と家庭の両立を支援する 「たんぼぼ保育園」

出産をして、ママさん医師になっても安心して働き続けていただくために、広島大学病院では院内保育所「たんぼぼ保育園」を併設。0歳時～6歳児まで対応し、専属の保育士が責任をもってお子さんのお世話をします。また、病気の回復期にある児童に対して、安静の確保に配慮して行うサービス「病後児保育」も行っています。



最先端の医療を提供する 「未来医療センター」

末梢血管疾患、慢性閉塞性動脈硬化症・ビュルガー病に対する、血管再生治療や細胞移植治療を伴う高度歯科治療など、最先端の医療を提供しています。



精確な診断を提供する、 最新の「320列CT」と 「3T-MRI」

平成25年9月に導入された最新の320列CT（Aquilion One/Vision, Toshiba）は、心臓全体を0.275秒で撮影できるほか、臓器血流の解析等にも威力を発揮。



最新の3T-MRI（Ingenia 3T, Philips）は、頭から足先まで高画質・短時間で撮像が可能。3T-MRI（Titan 3T, Toshiba）は、造影剤を使用せずに高分解能の血管像を描出することが出来ます。装置には絵がペイントされ、リラックスした雰囲気での検査ができるように設計されています。

2方向の血管造影装置と64列CTを備えた 「ハイブリッド手術室」



ハイブリッド手術室は外科手術と、血管造影や血管内治療（カテーテル治療）を同時に行えるのが特徴。2方向の血管造影装置と全身撮影ができる64列CTを備えたタイプとしては国内初で、従来は別々に実施していた外科手術と血管内治療を一度に行うことで体への負担を減らし、開胸手術が難しい高齢の患者さんにも優しい治療を実現。



小児科エリアの壁面に癒しの 「イラストアート」

小児科などが配置されたエリアには動物の楽しいイラストをペイント。患者さんが少しでも安心して診療が受けられる、人に優しい院内環境です。



充実の研修を実現する最新の 「レジデントハウス」

研修医のみならずにより充実した研修をしていただくために、研修医用居室68室を有するレジデントハウスを設置。部屋は1DKで生活に必要な設備が完備されています。

臨床研修病院合同説明会（レジナビフェア）への出展

広島県では、県内で初期臨床研修を行っていただける医師を増やす取り組みに力を入れています。

県内の臨床研修病院が共同で、合同説明会「レジナビフェア」に出展しています。

広島県の参加病院は、全員お揃いの真っ赤なベストを着て、一体となって医学生の方を迎えています。

このような活動を通じて、広島に多くの医師が集まっていただけることを期待しています。



若手医師の育成支援

広島県の若手医師の資質向上及びキャリア形成のため、基幹病院や大学病院の指導医等のグループが行う、「複数の医療機関」の若手医師を対象とする研修会等の活動を支援しています。

このような研修会により、広島県には医学生から指導医まで多様な医師ネットワークがあります。初期研修医による初期研修医のための研修会（広島グリーンサミット等）もあり、関心領域に応じたネットワークを築けます。

中四国総合医研究会／広島医療ネットワーク／尾道若手消化器病セミナー／藝州ヘルスケアネットワーク／広島症候学研究会／広島大学小児科セミナー／皮膚科研修医セミナー／感染症セミナー／広島／呉／宇部／下関／萩／山形／山梨／長野／新潟／富山／石川／福井／岐阜／愛知／三重／滋賀／京都／大阪／兵庫／奈良／和歌山／徳島／香川／高松／愛媛／高知／福岡／佐賀／長門／山口／岡山／広島／香川／高松／愛媛／高知／福岡／佐賀／長門／山口／岡山／広島

女性医師の活躍環境づくり

広島県では、女性医師の活躍環境づくりを最重要課題の一つとして取り組んでいます。

出産・育児等で休職や離職をしないで済む勤務環境づくりや復職のための研修支援など、次のような支援をしています。

女性医師等就労環境整備事業

- 短時間正規雇用導入支援事業
短時間正規雇用で勤務する女性医師の件費を補助
- ベビーシッター等活用支援事業
女性医師が利用する保育サービスの経費を補助
- 宿直代替職員活用支援事業
女性医師の代わりに宿直等を行う非常勤医師の件費を補助
- 復職研修支援事業
離職した女性医師に復職研修を実施する指導医の件費等を補助

ふるさと枠（地域枠）学生等の支援

地域医療を担う医師を育成するため、広島大学地域医療システム学講座と連携し、ふるさと枠（地域枠）学生等のキャリアパスの構築など、支援を行っています。

また年に数回、地域医療セミナーを開催し、学生に地域医療の現場を体験してもらい、先輩医師との交流の中からモチベーション向上を図り、将来のイメージを具体化する支援をしています。

